



芸術文化と社会に関する研究

[キーワード: 美術館、美術、フランス、展示、文化、歴史、食]

准教授 田中 佳

<研究の概要>

(1) フランス美術に関する研究

パリのルーヴル美術館の創設の経緯を、フランス革命前後の文化的・社会的文脈で研究している。ルーヴル美術館は、ヨーロッパでもいち早くナショナルな美術館として開設されており、創設に際しては、美術政策、美術の公開性、美術鑑賞者の育成、政治理念と美術の関係、文化財の保存と管理、展示方法など様々な問題が関わっている。今日の美術や文化をとりまく状況を考察する上でも出発点となる事例である。

(2) 地元の食材を用いた地域活性化と健康増進の探求

地元徳島の食材の魅力をアート作品として伝え、素材の味や色を活かした、健康的(無脂肪・低脂肪)で見た目も鮮やかな料理レシピを開拓している。成果の一部を徳島大学病院内のギャラリー展示として発表した(下図参照)。この試みは今後も季節を変えて継続していく予定であり、各種関連企画もいっそう進めたい。さらに、病院における芸術導入の意義についても研究を進め、実践に活かしていきたい。



「とくしま食のパレット-春-」展の様子(徳島大学病院ホスピタル・ギャラリーbe、2018年1月28日～2月24日)

<主要研究業績>

- ・江藤 光紀・荻野 厚志・田中 佳(2013)『美を究め美に遊ぶ—芸術と社会のあわい』、東信堂
- ・パスカル ボナフー(2014)『ルーヴル美術館の舞台裏』(田中佳訳)、西村書店
- ・「とくしま食のパレット-春-展」企画・制作(徳島大学病院ホスピタル・ギャラリーbe展示)、2018年1月28日～2月24日

<地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

- ・上記展示関連で、病院レストランSora、Ristorante SOLAIA、ホテル アド・イン鳴門にて、コラボレーションメニューの提供、食材写真展示の導入(喜多野安心市と連携)を実施した(2018年)。
- ・徳島県立近代美術館資料収集委員会委員(2016年～)、徳島県文書館協議会委員(2015年～)

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

芸術・文化の創造、地元の食材を用いた地域活性化、食や芸術文化と健康の関係など。

専門分野 : 西洋美術史、フランス文化史、食文化

E-mail: kei.tanaka@tokushima-u.ac.jp

HP : <https://www.facebook.com/Tokushima-Bio-Labo-672550449439741/>

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/261429/profile-ja.html>